

静岡に新たな知の拠点を創出



静岡文化芸術大学学長
横山 俊夫 氏

カギは人と言葉みがき

静岡県内の国立2大学にまたがる「未来社会デザイン機構」の発足に期待が膨らみます。できれば、何か愛称も付くといいですね。静岡大本部がある駿河を拠点に、す

に実績ある浜松の医・工・情報の連携を越える一歩が踏み出されるでしょう。

つまり新機構は、たんに複数の科学技術分野の協働にとどまらず、人文学も含め、高等教育そのものを、魅力ある地域づくりにかわらせたいとのこと。その意図は、静岡文化芸術大学が、文化とデザインの力で新時代を拓こうと努めてきたことに共鳴します。

科学も技術も、各分野の進展は止まりません。しかし、それらが全体としてどのような社会をもたらすのかという問いには、専門家だけでは答えられません。現代世界の高等教育機関に求められているのは、そのような問いを正面から受けとめることです。学生にとどまらず、これからの大学

の構成員に求められるのは、つぎのような生涯学習課題です。それは、現代の科学技術諸分野の知識の由来を広く理解するとともに、縁ある地域の歴史、風土、生活に立脚した社会デザインの創出に参画し、その地一帯の生命の輝きに寄与することです。そのような学びが続くことで、多様さと相互依存を同時に強める国際社会の安定持続が現実のものとなるでしょう。

本学では3年前から、そのような学びのための滞在型の対話施設「遠州学林」を開設する議論を深めており、創立20周年を迎える2020年中に、その構想の確定から施設の設計へと進みます。遠州学林は、この地域に望ましい、天、地、人のかかわりようを考える人々が、大学だけでなく、会社や市町、また国内外からも集い、対話をかさねて生長、林立する場です。すでに両国立大学の学長はじめ、自治体や経済界の方々との意見交換も重ねています。

両大学の新機構にも、また遠州学林にも、欠かせないことがあります。それは、第一に、人、モノ、コトを柔軟に仲立ちする人々が常にそこに居合わせてそれぞれに研究を進めていること、第二に、専門分野を越えて通じる言葉での対話に花が咲いていること、この2点ではないでしょうか。



光産業創成大学院大学学長
瀧口 義浩 氏

光技術を活用した“医療と工学”の産業拠点化への共創

静岡大学と浜松医科大学の新たな共創への動きは、この1年間を通してより現実的なものとして活発化している。一方、本学では、この4月

から「バイオフォトンクスデザイン分野」という新たな産業・研究領域を始める。静岡大学と浜松医科大学の推進する光医学共同専攻課程で研究開発される新たな医療技術を、さらに産業化支援することが本学の大きな地域的な使命であると認識している。新分野により、医療の現場において、まだ顕在化されていない埋もれた医療ニーズを現場から掘り起こし、それを解決する技術の事業化を展開するバイオ・デザインの概念に、本学の光技術による産業化支援のノウハウを合わせることで、静岡大学と浜松医科大学の共創にも生かしていけるのではないかと考えている。

今年に入ってから新型コロナウイルスの蔓延に伴うさま

ざまな産業・教育などへの影響は、これまで予想されていた医療管理概念を超える事態にまで発展してきてしまった。このような時にも、医療の現場での困りごとを着実に医療・バイオ機器の開発につなげることで、「新事業・新産業」に発展させ社会に貢献することができると考える。例えば、現場からは、公共の場で消毒をしきれていない部分があるのかどうか、患者の分布や移動がどのようになっているのかを可視化すること、あるいは、家庭では換気を行うタイミングのための要求なども多い。そのような現場からのニーズに対して、新たな光技術の発想を加えることができれば、社会的にも高い成果につながる。

今回の静岡大学と浜松医科大学の共創は、ある意味、この浜松という地域をどのような文化圏として継続的に発展させるかを問うている。これまでの消費社会から、より人々の心に寄り添った産業作りが今後の浜松に必要で、個別ばらばらな動きではなく、産学官金の広い領域から人材を集め、十分な協力関係を築いて、長期にわたり進めなければならない。

国公立の枠を超える 石井氏 次世代へバトンタッチ 今野氏

過剰なのは明らかである。今後、異なる分野の大学との連携は、避けて通れない。浜松地区は静岡文化芸術大学、光産業創成大学院大学がある。日頃より非常に良好な関係で、それぞれ専門分野が異なりながら大学を再編

木村「国立大学法人の統合再編を進めるには、地域連携プラットフォームに基づいた連携法人、または公立大学や私立大学との新しい連携は避けて通れない状況にある。難しい議論をしながらも新しい形を作ろうと、踏み込んだ2大学はきつと、地域の新しい高等教育のモデルを作ることでできると確信しています」

今野「地域連携プラットフォームは、今回の大学再編を伴う改革の前提とした法人化によるプロジェクトを進めることが、多分野の大学との連携というものは、その文脈に沿った流れだ」



大学統合再編の静岡県モデル実現に向け活発な意見の出た座談会

非常にいいモデルになる。今野「全く同意。2004年に国立大学法人になり、16年が経たうと、自ら目指す方向は共有できると思う」

木村「ありがたい。今野「全く同意。2004年に国立大学法人になり、16年が経たうと、自ら目指す方向は共有できると思う」

木村「ありがたい。今野「全く同意。2004年に国立大学法人になり、16年が経たうと、自ら目指す方向は共有できると思う」

地域連携プラットフォーム
今野「地域連携プラットフォームを使う大学の再編が今後加速するだろう。現実的には少子化が進み、18歳人口減の状況を鑑みると、現状の大学数が増える。大学の位置づけもかなり違う。このため、浜松地区の新たな大学が、この2大学と連携を進める可能性は十分考えられる。今回の大学再編を伴う改革の前提とした法人化によるプロジェクトを進めることが、多分野の大学との連携というものは、その文脈に沿った流れだ」

石井「改革の必要は、非常にチャレンジングである。今回の改革が示していくかどうかといった課題について、私も完全に同じ考える。今後、他の地域も含めて、新しいモデルがどんどん出てくる。そうなるために、我々は大学再編を伴う体制ではうまくいかないうところがある。中長期的な視点に立ち、この改革の必要性を、広くさまざまな人に理解してもらいたい。次世代にどのような形で我々の2大学をバトンタッチするのかが最も良いかをそれぞれの立場で考えてもらおうと、自ら目指す方向は共有できると思う」

一緒に、
とことん考える。

浜松いわた信用金庫

<https://hamamatsu-iwata.jp>

光とは、可能性そのもの。

あらゆる分野に広がる浜松ホトニクス製の製品・技術。光は、私たちのくらしと社会の今を支え、未来を作る Key Enabling Technology。光に関するコア技術の強化と、新しい応用の発見。新たな産業の創出。私たちは、光の可能性をかたちにしています。

浜松ホトニクス株式会社

www.hamamatsu.com

モータ・インバータの設計・開発者の「今すぐ試験をしたい」ニーズに応えます。

モータ受託試験・レンタルラボ

こんなお客様に

- 自社の設備が空いていない
- 忙しくて人手が足りない
- 自社の設備では能力が不足している
- 専門の試験技術者と交流でき、アドバイスをもらいたい
- 自社での経験が不足している場合、試験計画から実施まですべてを任せたい

株式会社 テクニカルサポート

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川7000-71
TEL (053) 523-2231(代) FAX (053) 523-2271
E-mail oishi@t-support.co.jp <http://www.t-support.co.jp/>

Technical Support
Mechatronics and Measuring Instruments

あなたが探しているキーデバイスは、ブルックマンテクノロジー かもしれません。

世界初!! 1秒間に120コマ撮影を可能にした8Kスーパーハイビジョンイメージセンサー

真夜中でも明るく、鮮やかに人間の目を超越するイメージセンサー

驚くほど速く、正確に高速3Dデプスイメージセンサー

イメージセンサー製品の販売、お客様の仕様に合わせたカスタム開発も行います。詳細はウェブサイトからお問い合わせください。

株式会社ブルックマンテクノロジー

<http://brookmantech.com>